

総合的病院機能検討委員会
報告書

2003年（平成15年）3月

はじめに

本委員会は、逗子市が施行した「総合的病院機能検討委員会の設置及び運営に関する要綱」に基づき、市民が要望している病院の役割・機能等について調査・検討するよう、平成14年8月27日に委員が委嘱され設置された。

本委員会に委嘱された事項は、総合的病院に期待される「役割・機能及びその他病院のあり方」に関するものであり、これまで7回の委員会を重ねてきた。その結果をここに報告する。

医療制度は今大きく変革を遂げようとしている。その変革の一つとして、医療提供体制の機能分化が進められている。かかりつけ医と入院機能を持つ病院との役割分担により、大病院の外来の患者を抑制し、また急性期の病院については在院日数を短縮する方向となっている。こうした方向は診療報酬に反映され、病院が経営を考えていく上で大きな要素となっている。

一方、逗子市民の総合的病院に期待する役割・機能は、平成14年4・5月に広報等で募集した意見等にみられるように、外来の重視と24時間救急対応、地域中核的な施設と待ち時間の少ない診療サービス、二次医療圏の大病院に見られるような総合的な診療科目の設置等であり、医療制度の変革の方向と必ずしも一致するものとはなっていない現状がある。

本委員会は、こうした医療制度の流れや市民の要望等を踏まえ、かつ、重要度や実現可能性等についても検討したが、これを一つにまとめることを避け、多様な視点から望ましい方向について、示すこととした。

今後、進出病院を含めた新たな協議会を設置し、具体的事項の議論により、市民の利用しやすく、望まれる病院が構築されることを期待する。

また、市長においては、本委員会の報告事項を広く市民に周知すると共に更なる市民意見の募集、またそれらの実現について努力されることを要請する。

I 総合的病院の位置付けについて

- ・高度医療機器の地域医療機関との共同利用や開放型病床による共同診療（オープンシステム）等を含めて、地域の医療機関と連携し、協力して市民の健康を守る関係を構築し、地域医療のレベルアップにつながるような病院が望ましい。
- ・二次医療圏の中の一角として近隣の総合的病院とも連携し、二次救急などの一翼を担うことができる病院である必要がある。
- ・震災等の災害時において、医薬品のストックなどを含め地域の医療救助活動の核となる病院が望ましい。

II 診療科目等について

①外来機能

- ・医療法の改正や病診の機能分担を図る医療行政の改革の方向性、また、外来患者が多くなると混雑し待ち時間等長くなり利用者にとって不便であること等を考え、地域医療機関と連携した「制度にとらわれない紹介型」を中心とした外来機能が望ましいという意見があった。
- ・これに対し初診でも行けば診てもらえるという従来型の外来機能を中心とした病院を望む意見や紹介を中心とする病院であっても一般外来をできるだけ受け入れることが望ましいという意見があった。
- ・外来患者を地域の医療機関へ紹介するいわゆる「逆紹介」については、紹介を受けて受診した患者についてだけでなく、紹介なしで訪れた初診患者についても可能な範囲で地域医療との連携のもと地域医療機関を紹介するシステムを構築することが望ましい。

②診療科目について

- ・できるだけ広い診療科目を設けて欲しいという意見がある一方で 300 床程度の入院機能で面積的にも決して大きくない病院では限界が当然ある。そうした点を検討し、逗子・葉山地域の医療圏で不足しがちな診療科目を中心に特徴のある診療科目の設置が望ましい。

*小児科

・特に近年、逗子市内だけでなく全国的に不足がちであるが、本病院では必須なものとして設置を望む。その上でさらに小児外科や小児皮膚科などが充実されることが望ましい。

*脳神経外科

・近隣の医療機関で手薄であり、緊急処置が必要な疾患である可能性が高いものなので、必須なものとして設置を望む。その規模については、脳血管センターのような大規模なものとする他診療科を圧迫する恐れがあるが、緊急処置や必要な手術ができるだけでなく、早期リハビリを含めて充実されることが望ましい。

*心臓等循環器科

・近隣に専門の医療機関があることから、重症者はそこに任せることでよいが、緊急処置として心臓カテーテル程度の処置ができるものは必要である。

*総合診療科

・何科を受診してよいか分からない場合や種々の相談ができるような診療科（総合診療科）の設置を検討して欲しい。

*臓器別診療科と老人科

・一つの科に、内科系と外科系の医師が集まり総合的診療をしてもらえる臓器別の診療科が良いとする意見が多い。
・ただし、高齢者は色々な病気に複合してかかることが多く、臓器別では診療科を決める難しさがあるうえ、逗子市は高齢者が多いことから老人科の設置が望まれる。

*他に診療科として意見がでたもの

・泌尿器科、耳鼻科、眼科が逗子市には少ないので必要と考える。
・近年、心の病で悩んでいる人が多いので心療内科的部門が必要と考える。
・交通事故などで需要が多いので入院診療ができる整形外科が必要である。
・脳神経疾患の初期リハビリだけでなく、リハビリテーション部門の充実が必要である。
・訪問看護や訪問医療が充実するよう協力して欲しい。
などの意見がでている。

- ・広報等で募集した市民意見の中には、これらの診療科目以外には、皮膚科、産婦人科、糖尿病に対応する診療科、また、核事故に一時救急的に対応できる科の設置を望む意見があった。

③患者との対応について

- ・広報等で募集した意見では、きちんとしたカルテに関する情報開示と診療に際してのインフォームドコンセントを求める意見が多く寄せられているが、これらについては、当然のことと捕らえている。

Ⅲ 救急機能について

- ・広報等による市民の意見の中には、365日、24時間の救急、特に小児救急について、実施を望む声大きい。

- ・しかし、現実的に300床規模の病院でこれを実施しようとした場合には、経営的に困難であり、市としても大きな負担をせざるを得ない状況になる可能性がある。それゆえ、地域の医療機関、特に（財）逗葉地域医療センターとの分担・連携により、現状の一次救急を充実する形を構築することが必要である。それによって、小児救急の充実を図ることはぜひ実現すべきである。

- ・また、二次救急についても二次医療圏にある総合的病院と連携することにより、現在の二次救急体制の更なる充実を要望する。

- ・精神科救急への対応も今後検討すべき問題である。

Ⅳ 住民参加等

- ・外来での障害者やお年寄りへの介助、入院患者の身の回りの補助など可能な限りボランティアを受け、活用できる病院であり、またその研修体制などをきちんと構築することにより地域と連帯感のある病院を目指して欲しい。

- ・地域住民の意見や要望等を検討し、その実現を図る住民・地域医療関係機関・行政・進出する病院からなる協議会を設置し、地域医療の向上・充実のため定期的な話し合いの場の設定が必要である。

- ・病院のレベルアップや真に住民ニーズにあった病院とするため、病院の運営の仕方、薬の出し方やサービスその他の問題を評価することができるよう平均在院日数、死亡率、院内感染の発生率等の客観的データをいつでも公表すべきである。

- ・(財) 逗葉地域医療センター等と協力することにより、住民の予防医学や救急救命等の講習会を実施し、地域住民の保健医療の啓発を推進して欲しい。

V 病院の建物、サービス等について

- ・建物は清潔で、気持ちよい建物であり、検査・治療に行くのに分かりやすい動線であることが必要である。
- ・「待ち時間」に対する配慮を行って欲しい。
- ・できる限り最新の高度医療機器をそろえ、また、それらをきちんと活用できる技師等のスタッフの充実が必要である。
- ・スタッフの教育には力を入れて欲しい。
- ・広報等で募集した意見では、入院患者の食事の充実や外来・見舞い客用の食堂の設置、多品目をコンビニ的に扱う売店の設置などを求める意見が寄せられている。
- ・建物の設計は、近隣の環境及びみどり豊かなレイアウトに配慮することが望まれる。